

H29 千葉県高等学校演劇連盟第12ブロック

# 演劇研修会成果記録

平成29年8月24日(金)

講師 大西 玲子

さよなら

もうあえないと

わかった時初めて

その人の大切さに

気づく。

さよなら

いっしょに寝たい

ないたり、時には

けんかしたり、わるぶりを

いったりそんな日があと

続いてほしいな

さよなら

さよなら

またあいたいな

恋の十もたらし

十もたらし

嫌いだ

夏の体育館

嫌いだ

キーン練習

ずっと嫌いだ

ボートとめらなな

ずっと嫌いだ

先生

とせ田んがおまへに

Handwritten text at the top left.

Handwritten text at the top right.

Handwritten text in the upper middle section.

Handwritten text in the upper middle section.

Handwritten text in the upper middle section.

Handwritten text in the upper middle section.

Handwritten text in the middle section, enclosed in a large bracket.

Handwritten text in the middle section.

Handwritten text in the middle section.

Handwritten text in the middle section.

Handwritten text in the middle section.

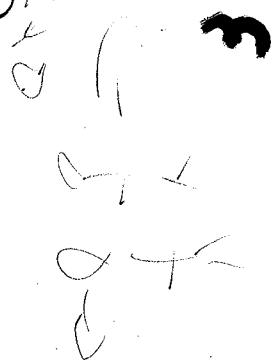
Handwritten text in the middle section.

Handwritten text in the middle section.

Handwritten text in the middle section.

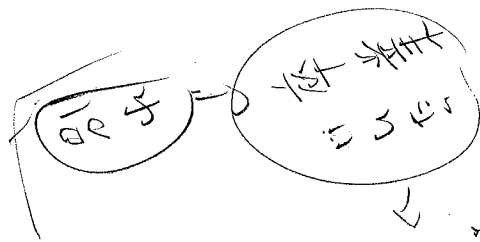
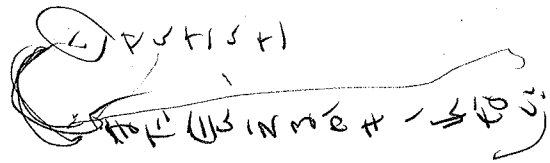
Handwritten text in the middle section.

Handwritten text in the middle section.



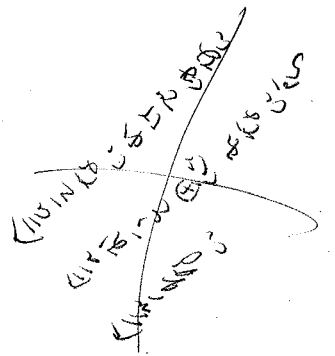
Handwritten text at the bottom left.

Handwritten text at the bottom right.



Handwritten text below the circles.

Handwritten text below the circles.



Handwritten text at the bottom right.

たしもの故ら 世にいつか

もの合ふなにと知りながら

最後を思はせられた私を許して下さい

最後にならねえと思ってる私を

「おつと」にせよ許さるゝものでせよ

弱くて小さな私を

こんな私をしかって下さい

哀しい者だと、弱い者だと、

来た瞬間の日を またいつか...

○ 十は、 $\frac{1}{10}$ は

○ 十は、 $\frac{1}{10}$ は、 $\frac{1}{10}$ は

十は、 $\frac{1}{10}$ は

✓ ○ 十は、 $\frac{1}{10}$ は、 $\frac{1}{10}$ は

十は、 $\frac{1}{10}$ は

十は、 $\frac{1}{10}$ は、 $\frac{1}{10}$ は

十は、 $\frac{1}{10}$ は

十は、 $\frac{1}{10}$ は、 $\frac{1}{10}$ は

○ 十は、 $\frac{1}{10}$ は、 $\frac{1}{10}$ は、 $\frac{1}{10}$ は、 $\frac{1}{10}$ は、 $\frac{1}{10}$ は、 $\frac{1}{10}$ は

十は、 $\frac{1}{10}$ は

十は、 $\frac{1}{10}$ は

5

不くして 明らかで さくらがさかいでした。  
涙は流れません。 口ねども悲しい。

一秒すらもきれいなものです。 ~~そ~~心こいで歩いてる。 ずと遠くに。  
どくしてでしゅうか。 割り切りとうとしてでいてると思ってるが、  
取て心はどくしても一歩してく ~~取~~すに、  
身体を動かさうとして いるのは心算のみです。

少しだけ希望を掲げてみても、そんな時に限って、勇気を出してみた時に限って、  
空回ってしまふ。 いっか二人はここに懐かれて、ちとじやすりに  
でまら日かくるのびしゅうか。

関係を壊してまじつながりた ~~い~~とと之子どかくるのでしゅうか。  
辛い いかどなでたか寧しく 感じらたてしゅうか。

さくらが散りみした。 ~~新~~た ~~ま~~青い葉が髪を身に焼くついでにます。

同じ木で ある等だというのに、見え方が変わって、香りも、木の中から  
さくらも、不気味と違っています。

でも、さくらがぱり思ふことは思ひなのです。

怒れ、たのすもしおません。 けれど、心は遠うと叫んでる。  
あと何年、何十年耐えればおら木のこのびしゅうか。

たよりなら

たよりなら ずぶ濡れの君が語り

かたのようは私の心に舞は

雨音のしとはかたにやめた

君の背中に何かを強く感じる

木玉の強く何かを

今何しようと思ったか私の心の中へ

7



たよりたし

かけられたい、たし

言えたい、たし

戻りたい、戻りたい

はいかえりたい

たよりたし

恋 さようなら

居はくはるはんと思はれた  
手に残るのは  
君の涙だけ  
季節は変わるたびに  
君の影を見つけた  
君の家を探してしまふ  
君は心を知りながら

別れ

さようならなんて

一生会えない詠じないのに

二人なに並<sup>いて</sup>歩~~く~~のけこつして

~~卒業式~~

◎ 後ろ姿見ただけで嬉しくなる

- ・ 話していると自由がよかない、でもちゃんと話したい
- ・ 笑顔にさせたい
- ・ はちみつみたいに甘い
- ・ 手の届くところについてほしい

せうなら、卒業式

悲しい  
 っらい  
 「じゃあね」  
 「またね」  
 会えない

桜のちる道

「じゃあね」と君が言った

もう会えないかもしれない

君をたたくえ作った思い出を

桜見るとび思い出す



# 初恋

毎日が楽しかった。

新しい友人や先輩に恵まれた毎日が、

ほんの何よりも楽しかった。

けれど、心が楽しめない日が生まれた。

楽しいはずなのになぜだろう。

考えて、考えて、考えて、

出した答えは単純でした。

それは「貴方」がいなかだからです。

To: \_\_\_\_\_

#1-2-11

W-11-11-11

11-11-11

11-11-11

11-11-11

11-11-11

11-11-11

①

甲の如きは手ご指中元押下

階級は風之丸の巻の日

何の如きは中身冷

毛水は刃物の上

②取巻は其の涯に

和は花に

別に仲が良かった訳じゃない

別に嫌いだった訳じゃない

自分だけ違う所にいるように

良くも悪くも無関心

サヨナラの日でも変わらぬに

周りで溢れる水溜り

乾いた瞳で見つめてた

「来って気付くものもある」なんて

とある人は言うけれど

失うものはない私

いったい何に気付くのか



高きから入る真風が

机に突っ伏して眠る貴方のほほを撫でる

まよとの国の国は

私の長持ちをばかにかゝる、ぼんちもあわ、ちがいにばい  
手に解れた風のぬる、まゆ+

私はええが哀しい

そりま、毎日顔をこぼせ

毎日泣きまといるおけたが

私より幾分早くはまを貴方には

貴方と周りのくしが知らな世界が

短腕をカッパに伸ばしたて

どうしても手が届かぬあけで

何も知らぬ紙片を貴方の衣襟

私はええが哀しい

私は君の右肩をさすおてこだ。

二人で歩く放課後

赤いこけしのまじり

これも私には特別に見えた

でも君との関係はかわらなうい

つかれたのは君のとなりで来たつめがどかいた

君は気づいてないでさ。私が好きだよ

ひまわりはさすさすさすさす

私と君せいのまじり、これも特別なさ

さすさすさすさすさすさす

初恋

走らなまかした

汗をかいた隠した

金も知るには  
まだまだ。

~~走らなまかしたは拍数~~

~~汗かいた隠した涙~~

~~咲くよの若の月~~

~~咲くよの歌の春は~~

一緒に水は

沸かす。

見ると水は

濁る。

話しに水は

あつた。